



知的障害と自閉症を理解するプログラム

障害のある子って、どんな気持ち？

見て、聞いて、体験して、知ろう！



茅ヶ崎いんくる隊 



はじめに

茅ヶ崎市社会福祉協議会は、ボランティア活動や地域住民による福祉活動を支援し、地域住民の皆さんや、行政・福祉施設などの関係機関や団体などと共に「すべての人が、住みなれた地域で暮らすことのできるまちづくり」を進めている民間の福祉団体です。

地域住民・企業・学校等が、福祉への理解や関心を高めることを目的に、ボランティアや障害者の協力を得ながら、出前型の福祉講座を開催しています。

その取り組みの一環として、平成 21 年度に『福祉教育プログラム集』、平成 25 年度に『知っていればよかった！精神障害』、そして平成 28 年度に『知的障害と自閉症を理解するプログラム』を作成することとなりました。

このプログラムでは、知的障害と自閉症のある子どもたちのことを理解し、対応の仕方を考えてもらうきっかけになるように、なるべくわかりやすい構成をこころがけています。

プログラムを通して、障害のある人を特別視するのではなく、障害の特性を理解したうえで、ひとりの人間として、ともに生きる仲間として、自然に接することのできる人たちが増えるようにと願っています。興味をお持ちいただいた方は、ぜひお気軽にお問合せください。

プログラムの作成にあたりまして、多大なるご協力をいただきました座間キャラバン隊の皆さま、当事者団体、福祉施設の皆さまに感謝申し上げます。

社会福祉法人 茅ヶ崎市社会福祉協議会

福祉教育プログラム(知的・発達障害分野)検討会

知的障害と自閉症を理解するプログラム

♥ねらい

○知的障害と自閉症とはどんなことなのかを知ってもらう「きっかけづくり」

♥進め方

	時間	やること	ポイント
講義	5分	○はじまりのことば	○共生社会についてポイントを理解する。
	10分	○障害についてのお話	○知的障害と自閉症の障害特性のポイントを理解する。
疑似体験 ※選択	18分	○ピカピカ王国へのお誘い	○「ことばが伝わらないって、どういうこと？」を疑似体験を通じて理解する。
	10分	○ふしぎな世界をのぞいてみよう	○「どんなふうに見ているの？（ひとつのものしか見えないって、どういうこと？見たいものしか見えなくなるって、どんな感じ？）」を疑似体験を通じて理解する。 (ペットボトルメガネ)
	12分	○できない気持ちを感じよう	○「どうして、うまくできないの？」を疑似体験を通じて理解する。 (軍手折り紙)
練習	10分	○こんなとき、どうするの？	○紙芝居やパワーポイントを見ながら、自分だったらどうしてほしいか考えてみる。
講義	5分	○まとめ	

 時間や会場の大きさ、人数などご希望に応じてプログラムの内容を決めますので、お気軽にご相談ください！

♡このプログラムのポイント♡

パワーポイントをつかってお話ししたり・・・

じへいしょう
自閉症について

19

ゆっくりだけど、
出来るが増えていきます。

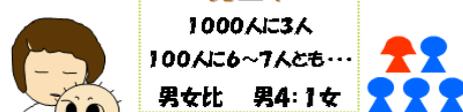
★ みんなより
苦手な事がちょっぴり多いだけです

やさしい気持ちで
見守ってください。

★

20

発生率
1000人に3人
100人に6~7人とも・・・
男女比 男4:1女

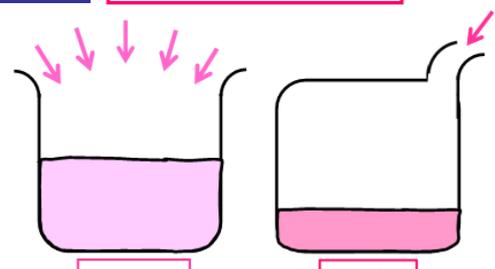


親の育て方が原因
ではありません

心の病気ではありません

24

コツが必要!



ふつう

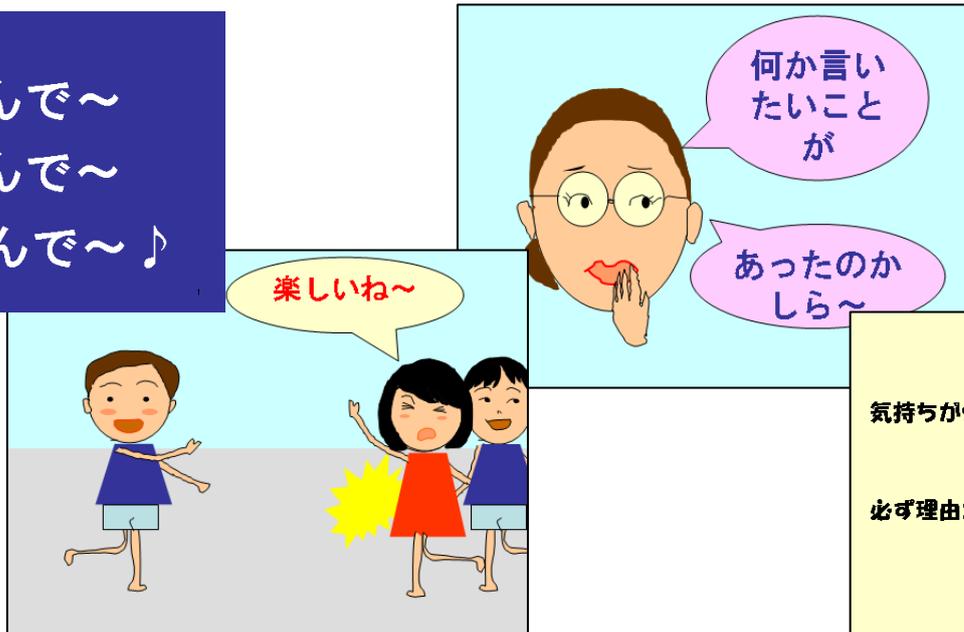
自閉症

22

実際にふしぎなメガネをのぞいたり、ピカピカ王国などの疑似体験をして・・・

紙芝居や「なんで～なんで～なんで～♪」の事例をつかって、どうしたらよいか考えて・・・

なんで～
なんで～
なんで～♪



何か言いたいことが

あったのかしら～

楽しいね～

まとめ

気持ちが伝えられなくてたいてしまう

↓

必ず理由があることをわかってください

34

障害のある子どものこと、皆が共に生きることを考えるきっかけづくりとなることを願っています!

知的障害について

知的障害とは、知的発達にかかわる障害です。

知的な能力は、成長するにしたがって育っていきます。ちょうど、身長や体重が、同じ年であれば、ある程度同じくらいになるように、知的な能力も、同じ年であれば、だいたい同じくらいに成長していきます。

知的障害の人は、この成長が同じ年の人よりとてもゆっくりです。

♥学力だけが知的な能力ではない

わたしたちは、知的な能力を、どのようなところでどのように使っているのでしょうか。

知的な能力は、まず学習するときに使います。学習するときには、新しいことを覚えたり、先生が話したことや本に書いてあることを理解したりします。そして、これらのことをもとに、自分で問題を解いたり、予想をたてたり考えたりもします。さらに、自分が予想したり考えたりしたことを発表することもあります。

このように、記憶する、理解する、問題を解決する、予想や計画を立てる、考える、筋道立てて自分の意見を述べる、といった能力が知的な能力です。

知的な能力は、学習以外でも使います。寒いときには上着を着る、暑いときには上着をぬぐ。このような判断する能力も知的な能力です。

学校や社会で生活するときにも知的な能力は使われています。現代では、ものを買うとき、お金を使います。また、自動車と人が安全に共存するため、道路を歩く人は右側、車は左側というような交通ルールが決められています。学校の決まりも、それぞれの学校ごとに決められています。

このように、人が集まると、その集団の中でのルールがつけられていきます。それらのルールに自分の行動を合わせる、この能力を適応能力といい、やはり知的な能力といえます。適応能力は、ルールに合わせるときだけでなく、周りの様子や状況に合わせるときにも使います。

♥知的障害の共通の目安は3つ

一般的には、次の3つがそろっていることが知的障害の共通した目安となっています。

- ・ 知的な能力の発達に明らかなおくれがあること
- ・ 適応行動をすることに明らかなむずかしさがあること
- ・ その障害が発達期に起こっていること



♥いろいろな障害にともなってあらわれることもある

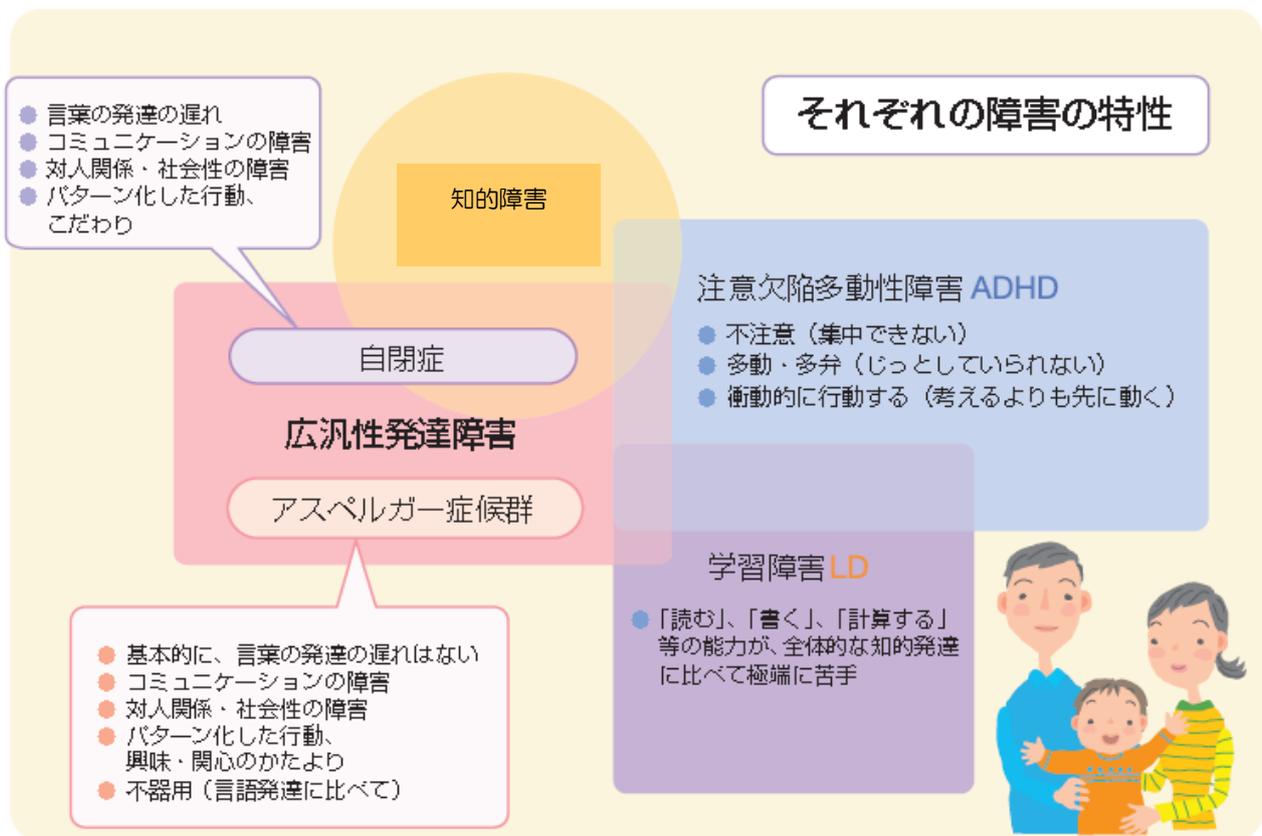
知的障害は、ある状態を表す言葉です。知的な能力の発達がおくれているほかは障害がない人もいます。けれども、自閉症という障害のある人で、知的な能力の発達もおくれている人がいます。脳性まひなどの障害がある人で、知的な能力の発達もおくれている人がいます。知的障害はいろいろな障害にともなってあらわれることも多いのです。自閉症や脳性まひの人に知的障害が必ずともなうわけでもなければ、知的障害があると必ずほかの障害がともなうわけでもありません。

発達障害について

発達障害者支援法において、「発達障害」は「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」（発達障害者支援法における定義 第二条より）と定義されています。

これらのタイプのうちどれにあたるのか、障害の種類を明確に分けて診断することは大変難しいとされています。障害ごとの特徴（とくちょう）がそれぞれ少しずつ重なり合っている場合も多いからです。また、年齢や環境により目立つ症状がちがってくるので、診断された時期により、診断名が異なることもあります。

大事なことは、知的障害の人も、発達障害の人も、その人がどんなことができ、何が苦手なのか、どんな魅力があるのかといった「その人」に目を向けることです。そして、その人その人に合った支援があれば、だれもが自分らしく、生きていけるのです。



～発達障害情報・支援センター発行パンフレット「発達障害の理解のために」より抜粋～



当事者からのコメント
(PC グランマ利用者 T.S.さん)

私は自分自身の成育歴から、障がい、年齢、性別意識などの多様性が認められる共生社会であることを強く望んでいます。

私が発達障害者であると思い、受診し、診断を受けたのは、20歳になってからでした。診断はないまでも、小学生のころ、いじめられ体験があったり、「なぜか友達ができない」「みんなと何か違う」という感覚をもっていたりしました。

「平等な世の中に」「差別はいけない」といった理想と、現実に「理解しがたいもの」に対して人が持つ自然な感情とにはギャップがあると思います。

大切なことは、「障害特性への理解」というよりも、「自分と違うと感じる人に出会った時にどう感じ、どうその気持ちを自分が受け止め、どう行動するか」を考えること、そうした機会を作ることだと思っています。

自閉症

Aちゃんの例

急に予定が変わったり、初めての場所に行ったりすると不安になり動けなくなることがよくあります。そんな時、周りの人が促すと余計に不安が高まって突然大きな声を出してしまうことがあります。周りの人から、「どうしてそんなに不安になるのかわからないので、何をすればいいかわからない」と言われてしまいます。

でも、よく知っている場所では一生懸命、活動に取り組むことができます。



アスペルガー症候群

Bくんの例

他の人と話している時に自分のことばかり話してしまって、相手の人にはっきりと「もう終わりにしてください」と言われないと、止まらないことがよくあります。周りの人から、「相手の気持ちがわからない、自分勝手にわがままな子」と言われてしまいます。

でも、大好きな電車のことになると、専門家顔負けの知識をもっていて、お友達に感心されます。



Cさんの例

大事な仕事の予定を忘れてたり、大切な書類を置き忘れてたりすることがよくあります。周りの人にはあきれられ、「何回言っても忘れてしまう人」と言われてしまいます。

でも、気配り名人で、困っている人がいれば誰よりも早く気づいて手助けすることができます。



注意欠陥多動性障害

ADHD

Dさんの例

会議で大事なことを忘れてまいとメモをとりますが、本当は書くことが苦手なので、書くことに必死になりすぎて、会議の内容がわからなくなることがあります。

後で会議の内容を周りの人に聞くので、周りの人から、「もっと要領よく、メモを取ればいいのに」と言われてしまいます。

でも、苦手なことを少しでも楽しくできるように、ボイスレコーダーを使いこなしたりと、他の方法を取り入れる工夫をすることができます。

学習障害 LD

ここに示したのはあくまで一例であって、どんな能力に障害があるか、どの程度なのかは人によって様々です。子どもにも大人にもこれらの特徴をもつ人がいます。発達障害は障害の困難さも目立ちますが、優れた能力が発揮されている場合もあり、周りから見てアンバランスな様子が理解されにくい障害です。そのため、上で紹介したような印象をもたれていることが多くあります。近年の調査では、発達障害の特徴をもつ人は稀な存在ではなく、身近にいることがわかってきました。発達障害の原因はまだよくわかっていませんが、現在では脳機能の障害と考えられていて、小さい頃からその症状が現れています。早い時期から周囲の理解が得られ、能力を伸ばすための療育等の必要な支援や環境の調整が行われることが大切です。

💖 検討会の皆さんからのコメント 💖

茅ヶ崎手をつなぐ育成会会長 瀧井 正子氏

子どもはこの先どんなふう生きていくことができるのだろうか。親はその子の将来を見届けることはできません。それは障害があってもなくても同じ事です。障害のある子の親としてより人の親として、いろいろな人がいて、それぞれが自分らしく生きていける社会になったらいいなと思います。

今すぐに何か変化はなくても、10年先、20年先振り返ったらこんなに前に進んでいたと実感できる。そういう事の種まきのお手伝いができてうれしいです。

茅ヶ崎地区自閉症児・者親の会（茅ヶ崎・寒川やまびこ）会長 上杉桂子氏

“ともに生きる” かながわ憲章が昨年発表されました。

皆で障がいのある人を理解して、かながわを「日本で一番障がい者が住みやすい県」にしていきましょう！

神奈川県発達障害支援センターかながわエース 松浦 俊之氏

「発達障害」のある人は見た目では我々と何ら変わりがありません。しかし、「見えないう障害」のために学校や社会で「困った人」と誤解を受けて、困っている人もいます。

「困った人」は「困っている人」かもしれないという目で見てもらえると安心できる人もたくさんいます。プログラムでは「困っている人」がどんなふう困っているのか考えるきっかけになればと思います。

就労移行支援事業 PC グランマ 鈴木 拓氏

障害者が社会で働いていく上で、接するひと、みんなが福祉に理解があるとは限りません。どう関わったら、当事者も周りの職員も、気持ちよく仕事ができるか。その入り口は、専門的な知識や技術ではありません。

まずは、“ 出会うこと、知ること、理解すること ” です。これは、障害者に限ったことではなく、みんなが暮らしやすい社会のために必要です。このプログラムが“ 出会う、知る、理解する ” きっかけになることを願っています。

元特別支援学級 教諭 丹沢 法明氏

このプログラムを通して、身近なのに、なかなか理解されにくいお友だちへの理解が深まればいいと思います。

「茅ヶ崎いんくる隊」 とは・・・？

福祉教育プログラム（知的・発達障害分野）検討会のメンバーのうち、茅ヶ崎手をつなぐ育成会、茅ヶ崎地区自閉症児・者親の会（茅ヶ崎・寒川やまびこ）、茅ヶ崎市社会福祉協議会で結成したキャラバン隊です。

私たちの活動が、障害のある子どもを知りきっかけづくりになれたらと願っています。

「茅ヶ崎いんくる隊」の講演では、知的障害や自閉症の子どもたちのことをお話ししたり、皆さんに実際に体験してもらって、どんな気持ちなのかを感じてもらったり、どう接すればいいか、アニメや紙芝居で伝えています。

ところで、「茅ヶ崎いんくる隊」の「いんくる」って、どんな意味でしょう？皆さんは、「ソーシャルインクルージョン」という言葉をご存知ですか？

ソーシャルインクルージョンとは？ 

社会的に弱い立場にある人々を排除・孤立させるのではなく、共に支え合い生活していこうという考えで、「社会的包摂（しゃかいてきほうせつ）」と訳されます。

誰でも障害を持ったり、障害のある家族を持つことがあります。障害があってもなくても、共に生きていける社会があれば、どんなに安心できるでしょうか。

みんなで、地域や学校で、障害のある子を知り・伝える活動を進めていけたらいいですね。そして1人ひとりに必要な配慮をしながら、お互いに協力し合えたら心強いですね。

地域での啓発活動に、学校での授業に、「茅ヶ崎いんくる隊」をぜひご活用ください！



知的障害と自閉症を理解するプログラム

発行日：平成 29 年 3 月

発行：社会福祉法人 茅ヶ崎市社会福祉協議会

協力：福祉教育プログラム（知的・発達障害分野）検討会

〒253-0044

茅ヶ崎市新栄町 13-44 さがみ農協ビル 2 階

電話 0467 (85) 9650 FAX 0467 (85) 9651

<http://www.shakyo-chigasaki.or.jp/>

e-mail:vc@shakyo-chigasaki.or.jp